



発行：松本大学 白戸ゼミ

上土の情報を発信します

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。地域やお店の情報、地域の皆さんから提供していただいた話題など様々な情報をお届けするミニコミ誌『あやめ』を発行します。

あやめの花言葉には「**良い便り**」「**メッセージ**」という意义があります。私たちも地域の皆さんに良い便りやメッセージをお届けできるようにとの願いを込めて『あやめ』と名付けました。

新型コロナウイルスなどの影響で暗い話題が多い中ですが、一緒に上土を盛り上げていこうと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

意見を募集しています

白戸ゼミでは『あやめ』に掲載する**情報を募集**しています。お店のテイクアウト情報や「〇〇やっています」「△△に困っています」などお店の情報だけでなく、生活していく中での共有したい悩みなど幅広く募集中ですので気軽に情報をお寄せください。

☆募集方法：カフェ上土に設置してある回収 **BOX** に投函
応募用紙は回収 **BOX** 近くに置いてあるものに記入していただくか、自宅で紙に記入したものをお持ちください。

白戸ゼミ紹介

私たちはこれまで、夏の草刈りや市民祭、えびす講、各種学習会などに参加してきました。また、松本駅西側の巾上地区でも活動をしており、小学校での焼き芋大会など子供達と多く関わっています。地域の皆さんが快く受け入れてくださっていることで、とても楽しく活動ができています。

新型コロナウイルスにより、交流が減っているからこそ『あやめ』を発行します。『あやめ』をみて、地域や私たちを身近に感じてもらえたら嬉しいです。新型コロナウイルスに負けず、一緒に頑張っていきましょう！



発行：松本大学 白戸ゼミ

こんにちは。松本大学白戸ゼミです。今回の「あやめ」では、野菜市の情報と、上土のお店情報についてお届けします！

入山辺野菜市を開催しています！

場所：カフェ上土前 日時：毎週木曜日 時間：15時～

6月4日の野菜市では、以下の商品を予定しています。



入山辺の農家さんが持ち寄った、新鮮な野菜がいっぱい！ぜひお越しください！

・フロッコリー ・レタス ・フキ ・小松菜 ・トマト大玉(島立産) ・玄米 ・もち米
・(※)小梅

※育成具合によっては出荷できない場合があります。

※書いてある野菜は、日によって変わる場合がございます。

※小梅については予めご連絡いただければ予約としてご用意出来ます。

但し、6月第一週目がピークなので、それ以降は少なくなってきます。

予約先：鈴木さんの奥さんまたは入山辺地区地域づくりセンター (0263-32-1389) 平林まで

今回のお店情報 「平出酒店と8オンス」

場所：平出酒店&8オンス (松本市大手4丁目10番13号)
営業時間：9時～22時
定休日：日曜、祝日
ホームページ：<http://www.hiraide.biz>



平出酒店と8オンスでは、ウイスキー、日本酒の量り売りを行っています。外出を控えるために、ゆっくり自宅でおいしいお酒をどうぞ！詳しくは下記のQRコードにアクセスしてください！



このQRコードは、アクセス解析のためにCookieを使用しています。

アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です

意見を募集しています

白戸ゼミでは「あやめ」に掲載する情報を募集しています。お店のテイクアウト情報や、「〇〇やっています」「△△に困っています」など、お店の情報だけでなく生活面での悩みなども募集中ですので気軽に情報をお寄せください。

☆募集方法：①カフェ上土に設置してある回収ボックスに投函。(用紙はボックス付近にあります。)

②メール

アドレス：matsu.machi2020@gmail.com

件名：「あやめ意見応募」

☆たくさんのご意見お待ちしております☆



発行：松本大学 白戸ゼミ

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。梅雨に入り、蒸し暑い季節になってきました。新型コロナウイルスの影響でマスクをしなければならない日々が続いていますが、水分の補給をこまめにするなど熱中症に気を付けましょう。

今回は A3 用紙の両面に情報が載っています。

今回の情報

野菜市のお知らせ

縁を結ぶ魅力発信

想雲堂の紹介

畑井ゼミのお知らせ

上土ふれあい新鮮市 売り場変更のお知らせ

毎週木曜日の 15 時から行っている入山辺の野菜市ですが、開催場所が一部変更になったのでお知らせします。

第 1、3 木曜日：生坂村観光協会と合同で、上土ふれあいホール駐車場で開催します。

その他木曜日はこれまで通り、カフェあげつち前で野菜市を行います。

地元で収穫されたおいしい野菜をぜひご堪能ください。

まつもと^{しろしたまち}お城下町の魅力発信

松本市中心街の上土町、縄手通り、緑町の店舗や街も魅力を伝えるホームページが開設されました。

「まつもと お城下町 個×味×遊 (コミュニケーション)」と称し、人と人を結ぶ「縁」^{えにし}を大切にしたい商店街の雰囲気を伝えています。

個×味×遊 (コミュニケーション) は「こだわり (個)」「あじ (味)」「遊び心」を加えた、新たなエンターテイメントゾーンとしてお城下町を盛り上げるべく名付けられました。コミュニケーションにはフランスにおける基礎自治体、すなわち地方自治体の最小単位の



「個×味×遊」のトップページ



<https://oshiroshitamachi.com>

この紙面の QR コードはアクセス解析のために Cookie を使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能は Cookie を無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

意味があり、ダブル・ミーニングになっています。

プロジェクトリーダーである三村さんは、「ホームページには今後、ブログや写真コーナーなど様々なコンテンツを増やしていきたい。地域の方にはサイトをぜひ見て欲しい」と語ってくださいました。

ホームページには、各店舗のクーポンなどもあるのでぜひご活用ください。



これからの展望を熱く語る

プロジェクトリーダーの三村さん

「あなたの縁を彩る『まつもと お城下町』の風」

お城下町の上土町、縄手通り、緑町のPR動画が作成されました。YouTubeに動画が上がっています。この機会に地域の魅力を再発見してみたいかがでしょうか。



公式 YouTube
チャンネル

お城下町 【個×味×遊】イメージフーズアイデア募集をしています

それぞれの町をイメージするフーズ（食品・スイーツなど）に関するアイデアを募集しています。採用された方は「お城下町お買物券」1万円分がもらえます。地元ならではのアイデアをぜひご応募ください。詳しくは、まつもと お城下町のホームページ・お知らせより確認してください。

お店情報 「古本喫茶 想雲堂」

場 所：松本市大手 4-10-15

松本ホテル花月 前

営業時間：平日 15～22時

休日 12～22時

定休日：月曜日

店主からメッセージ「とにかくお店に来てみてください」

2013年に大正時代の看板建築の店舗をリフォームして開店した古本喫茶です。松本市で古本喫茶の先駆けとなっている店内には、店主が数十年集めセレクトされた本が並んでいます。

コンセプトは「本が読めて、コーヒーやお酒が楽しめるお店」で店内では食事をしながらゆったりと店主の集めた古本を読むことができ、お気に入りの本があればそのまま購入していくこともできます。

Facebookにお店の情報が投稿されているので、確認してみてください！



公式 Facebook



その他

取材と情報提供をお願い できるお店を募集しています

応募方法：matsu.machi2020@gmail.com に件名「あやめ意見応募」で送信

又は、カフェ上土に設置してある回収ボックスに投函してください

まちの人の声もお待ちしております。

畑井ゼミからのお知らせ

こんにちは！松本大学畑井ゼミです。白戸ゼミと一緒に上土で活動しています。私たちは“人とのつながり、愛着を生むまちづくり”をテーマにさまざまな取り組みを行っています。

上土 photo でつながるココロ～あなたの想い、送ってみませんか？～

上土の風景のポストカードを作りました。これらは私達の撮影した写真に加え、まちの方々と一緒にチェキで撮影したものも使っています。普段言えないことなども、今だからこそポストカードで伝えてみませんか？



○金額

5枚セットで350円です。上記の素敵な絵柄の封筒に入っています。

○購入方法

以下のお店で購入できます

カフェあげつち 茶房・酒房やったる

ビューティーファッションみすず 増田写真機店

ぜひご購入ください。お土産にもぴったりですよ！

Instagram

Instagramで上土の風景や情報を発信しています。あやめと連携してお店の紹介も投稿する予定です。ぜひご覧ください。



「Instagram [agetsuchi_matsu](#)」とインターネットで検索するか、こちらのコードをスマートフォンやタブレットで読み取ってみてください！

野菜市

日時:毎週木曜日

15:00～(無くなり次第終了)

開催場所

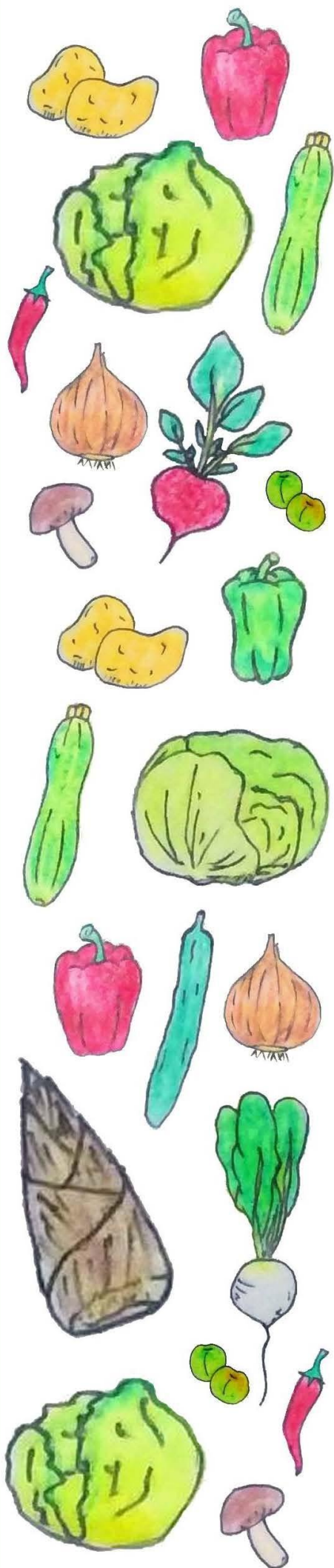
第1・第3木曜日 上土ふれあいホール駐車場

その他木曜日 上土カフェ前

※第1・第3は生坂村観光協会と合同販売

販売品:入山辺の季節の野菜や、ジャム、手作りマスクを販売しています。

※状況により内容が変更されることがあります。





発行：松本大学 白戸ゼミ

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。県をまたぐ移動が解除されるなど、少しずつ明るい兆しが見え始めてはいますが、予断を許さない状況はまだまだ続いています。力を合わせて乗り越えていきましょう。

お店情報「茶房・酒房 やったる」

「おふくろの味」で「憩いの場」をご提供！

お店の概要

住所：長野県松本市大手4丁目10-1

定休日：日曜・祝日

営業時間：18時～23時まで

ご予約：090-3143-9770(13時～20時)



お客様が「よし、やったるで！」という気持ちになっていただける「憩いの場」にしたいという願いをそのまま店名にしました。以前は「矢っ樽」でしたが、2年前、現在地への移転の際に「やったる」としました。「明日への英気」を養ってもらえるよう、心に沁みる家庭的な創作料理を中心に「おふくろの味」を提供して参ります。



中でも骨付きの「山ぞく焼き」(写真下)は、ご好評頂いておりますので、是非ご賞味ください。茶房・酒房としてありますのは、いずれ昼間の時間帯で「寛ぎの場」を提供したいという思いがあつてのことですが、今のところ「サボウ(茶房)って」ます。…(笑)

(やったる 三村さん談)

取材と情報提供をお願いできるお店を募集しています

※応募方法：matsu.machi2020@gmail.com に件名「あやめ意見応募」で送信。

又は、カフェあげつちに設置してある回収ボックスに投函してください

「あやめ」が新聞に掲載されました!!

私たちのあやめの活動が注目され、新聞に掲載して頂けることとなりました。

2020年6月28日 市民タイムス 2020年6月30日 信濃毎日新聞 中信面

その他、読売新聞と中日新聞も掲載予定です。

今後とも地域のために活動して行きますのでよろしく申し上げます。



発行：松本大学 白戸ゼミ

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。雨が連日続き肌寒い季節ですが皆さまいかがお過ごしでしょうか。私たち学生はオンライン授業やバイト、家の片づけなどそれぞれの時間を過ごしております。じめじめした日が続き気分が下がるかもしれませんが「あやめ」を読んで少しでも楽しんでいただければ幸いです。

今回の情報

一步の紹介次回発行日

お店情報 居酒屋大衆酒場「一步」

場 所：松本市大手4丁目10-17

営業時間：平日 11:30~14:00

(ラストオーダー13:30)

17:30~22:00

休日 17:30~22:00

定休日：日曜日



《店主からのメッセージ》

地域の人との関わり合い、顔の見える安心感！

おいしい揚げたての山賊焼、地酒、地ビールはぜひ一步で。

年齢関係なく色々な人が好きなものを食べられるお店「一步」。地元の人にも、観光の人にも喜ばれるように地元のものを使っており、昔から「長野の名物は一步に来れば食べることができる！」と言われてます。

「一步」の由来はお店を始めるとき、奥様の「スタートの一步」という言葉がきっかけとなっており、スタート地点に立つという意味があります。そんな一步では地域とのつながりも大切にしており、松本を知ってもらうことができます。

一步では生姜たっぷり、ニンニク控えめの**山賊焼**がおすすめです！！その他にも、煮いかや塩いか、蜂の子といった昔ながらの食材もそろっており、郷土食も楽しめます。ぜひ**出来立てをお店で！！**

また、健康づくりに特化したヘルシーな弁当やヨガ、キッチンカーでデリバリーなどを計画中です。(日にち未定)

一步ホームページ

山賊焼応援団ホームページ

この紙面のQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

<https://www.matsumoto-ippo.com/sp/><https://www.sanzokun.jp>

次回発行日

次号の「あやめ」は8月6日に発行です。



発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：小林・増澤・峯村

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。梅雨も終わり、日差しが強く蒸し暑い季節になりました。これから、台風の被害が多い季節がやってきます。例年台風の被害が少ない長野県でも、今年の台風19号では長野市を中心に甚大な被害が発生しました。

今回の「あやめ」では、わたしたち学生も含め日頃の防災意識を高めるため、上土における災害対策について取材しました。

3ページ目からは畑井ゼミからのお知らせになります。

Topic

→地域の防災

→畑井ゼミから

考える、上土の防災

今回お話を聞いたのは、長年町会長としてかかわってきた鈴木秀三郎さんと、町会の総務として連絡先や避難先の調査に携わった増田志津子さんです。

まず、地震が起こった際の避難場所についてです。地震が起きたときは、「開智小学校」「中央地区大手公民館」が松本市の定めた避難場所となっています。上土独自に、上土駐車場を一時避難場所にしており、避難状況の確認のためにもとりあえず来てほしいとのことでした。

上土の防災対策としては、防災倉庫というものを設置しています。中身としては簡易トイレや保存食、毛布などの災害時に役立つものを備蓄しています。また発電機も買ってあり、一時的な最初の避難所である駐車場で使うことなどを想定しています。上土では、納涼祭などのイベントもあるため、テントやプロパンガス、鍋や机などは備えられています。その他にカフェの前にある井戸水も電気が来なくなるとくめなくなるので非常時に備えています。

2014年に白馬村で発生した地震では家屋の下敷きになった人もいましたが、近隣の住民たちが助け出すことにより、一人の犠牲者も出ませんでした。これは災害時に自力避難が困難な人の住宅を把握し、誰が災害時に手助けするのかを地域で決めて共有していたからです。普段から誰がどこにいるのか声を掛け合い、町内の人の居住状況や連絡先をしっかりと把握しておくことが犠牲者を出さないためには必要となります。



次に洪水時についてお聞きしました。上土周辺で水害が起きた場合、上土通りの西側の方が低地になっているため危険です。実際に昭和34年には、上土でも水が道路まであふれたこともあるので、洪水の警報が発令されたら速やかに自宅の二階など高い場所へ避難すべきです。上土では、カフェ上土、ふれあいホールなどに避難することもできます。

最後にお二人に今後についてお伺いしました。

鈴木さん「もっと色々と防災やその他の情報も周知して訓練などもやりたいと思っている。だが現状では厳しいとも感じている。」

増田さん「コミュニティの場所はとても大切であると考えている。防災だけではなく、普段の生活をしていくためにもとても有意義なことであると思っており、どれだけの人とつながりをひろげていけるかが課題であると考えている。」

● 今回の取材を通して感じたこと

峯村尚弥

予期せぬ災害に備えて、食料や発電機などの物資を備蓄するとともに、地域の危険箇所や避難所、避難ルートを確認しておくこと。そして、一番大事なこととして、日頃から地域の人同士で声掛けをしてつながりを持ち、情報を共有して連携することが重要だと考えます。

増澤宏

災害が起きる前にどれだけ備えておくかが、生死を分ける大きなポイントだなと感じました。現在暮らしている地区には引っ越してきたので、どこに誰が住んでいるのか知りません。災害時に他の人の命や自分の命を守るためにも近所の人との交流を深めようと思いました。

小林茉結穂

今回お二人にお話を聞いて感じたのは、日頃からの備えを行うのは本当に重要であるということです。地域の中で備品を貯えておくことは勿論。地域住民が日ごろからお互いにコミュニケーションをとることによって情報の共有だけでなく、いざという時の連携も取りやすくなり、災害時だけではなく普段の生活での支え合いにもつながると思いました。

白戸洋

災害が起きたとき日頃の地域のあり方が問われると言われています。普段から顔の見える関係をどれだけ作っているかで被害が防げることは誰もが知っていますが、実際にはなかなかそうならないことが多いと思います。しかしカフェや町会の様々な活動を通じて誰かが誰かを常にいるという文化が上土にもっともっと広がっていくといいなと思います。

畑井ゼミからのお知らせ 第2弾！



畑井ゼミ

写真左から遠藤冴香・熊野朱桃・岡本真奈・山口樹々・槇石陽介・畑井先生

畑井ゼミでは、これまでに4回白鳥写真館前のディスプレイを更新しています。上土を通った時に見てもらい、少しでも上土を知ってもらえるよう展示しています。

今回はポストカードを活かし、川柳を考え展示しています。個性あふれる作品ばかりなので、ぜひディスプレイでご覧ください。

みなさんのつくった川柳を募集します！

募集の種類	川柳と一緒に添付してほしいもの
①畑井ゼミ作成のポストカードに対する川柳	どのポストカードに対してかと、ペンネーム
②自分で撮影した写真に対する川柳	自分が撮影した写真、ペンネーム
③上土全体に対する川柳	上土全体への川柳である旨、ペンネーム

応募方法 ①インスタで投稿→@agetsuchi_matsu の投稿に
コメント又はDMで添付情報と一緒に投稿する。

②カフェ上土のあやめ回収BOXに投函
→川柳をお好みの紙に記入。添付資料と投函する。

もっと詳しい情報を知りたい方は、インスタグラムをチェックしてください。

川柳は随時募集します。ぜひ、ご応募ください！

※応募された川柳は畑井ゼミで作成予定の写真集などで使わせていただきます。

Instagram



AGETSUCHI.MATSU

畑井ゼミのメンバーに
ポストカードやディスプレイに
込めた思いを聞きました！

山口

上土にもこんな場所や場面があるんだと知っ
て貰えると嬉しいです。
ぜひ、ポストカードに載ってる場所を探して
見てください！！

熊野

時代遅れに感じるポストカードだけど、だ
からこそ、このポストカードで想いを届け
てほしいと思います。
どの絵も日常に溢れている風景ですが、ど
こか懐かしさを感じます。
それらを川柳として別の形にすることで
色々な視点から楽しんでもらえたらと思
います。
是非立ち寄ってみて、クスッと笑ったり共
感したりしてもらえたら嬉しいです！

岡本

同じ風景でも視点や見る人が違えば感じる
ことは様々であるという想いを込めて作り
ました。
今回のディスプレイを見ることで、ありふ
れた身近な場所でも、まだまだ気づいてい
ない魅力はたくさんあるのだと思うきっか
けになればと思います。

遠藤

皆さんはこのポストカードの写真が上土の
どこで撮られたか分かりますか？ぜひまち
を歩いて見つけてみてください！
また、皆さんもポストカードを見て上土へ
の思いなどを自由に川柳にしてみてください
いね！
このポストカードを使うことで、皆さんに
少しでも楽しんでいただけたら幸いです

槇石

現在はコロナウイルスによりポストカードの
景色を直接見ることはできませんが、落ち着
いてきたら同じ景色を探してみてください。
新たな上土を見つけられるかも？

畑井先生

当ゼミに集った5名の学生は、いつも本気で上土のことを考えています。
毎週、上土での活動内容について試行錯誤を繰り返している彼らの姿を見ていると、いつの間
にか心がほっこりしてきます。
これからも、是非、彼らの活動を応援して頂ければ幸いです。



発行：松本大学 白戸ゼミ

編集：泉山・青木・須藤

お盆が過ぎ、皆様いかがお過ごしでしょうか。暑さ寒さも彼岸までとありますが、まだまだ暑い日が続きます。熱中症に気を付けてお過ごし下さい。

今回は、お盆特別号として今までのあやめの総集編とゼミのこれからの展望を紹介します。

これまでの活動

私たち白戸ゼミは、新型コロナウイルスで困っているお店の方々のために何かできないかと考え、ミニコミ誌あやめの発行を始めました。上土商店街のお店の情報やイベントを掲載しており、毎月第1週と3週に発行しています。

いい便りという花言葉を持つあやめを由来としています。

上土周辺の方に配布すると共に、カフェあげつちにも置いてあります。

これからも地域の情報を発信していきますので皆様どうぞよろしく願います！一緒に上土を盛り上げていきましょう！

白戸ゼミでは、あやめに載せる情報を募集します！

応募方法：matsu.machi2020@gmail.com に件名「あやめ意見応募」で送信。

又は、カフェ上土に設置してある回収ボックスに投函してください

感想・これからの向けての意気込み

大塚里紗

私は、「あやめ」を通して上土地域を少しずつ知っていき、楽しく活動しています。新型コロナウイルスの影響で人との繋がりが薄れていくなか、少しでも皆さんと情報共有をしたいです。上土の皆さんも「あやめ」を通して楽しんでいただけたら嬉しいです。

泉山竜毅

「あやめ」の活動を通し、地域の方の思いをより深く知ることができ、やりがいを感じています。また、「あやめ」の活動を通じて、地域へ向けた情報発信を学び、地域の若い世代に地域活動に興味を持ってもらうための方法を考えていきたいと考えています。これからも、一緒に活動していきましょう。

峯村尚弥

「あやめ」の作成を通して、地域の方々の上土に対する思いや将来についての考えを知ることができました。今後も「あやめ」を通じた情報発信をしていき上土のまちづくりの力になればと思います。

小林茉結穂

「あやめ」の製作を通じて一番感じたことは、実際にお話を聞くことは大切であるということです。ネットの情報ではわからない地域の方の思い、裏話、将来への思いなど様々なことを知ることができました。これからも地域の方の思いなどを「あやめ」を通じて発信していくことで地域のつながりをつくるきっかけにしていきたいです。

青木康平

当初は、情報誌を作るという初の試みに責任感を覚え尻込みしてしまいましたが、これまでの6回の活動を通して、上土の知らなかった側面を知ることが出来、人々の温かみに触れられ、記事として形にすることで私が誰かの力になれるという実感が湧きました。これからも皆様の力になれるよう頑張っていきたいと思います。

中村吏孔

実際に現地に出て活動することが難しくなってしまったこの状況下で、「あやめ」を作成し、情報発信していくことで新たな人と人との繋がりを感じることができました。お店の情報や地域の方々の想いをこれまで以上に知ることができ、これからも継続して作成していきたいです。

海谷涼太

私はあやめを始めてから、自分たちで取材をしたり調べたりする事で、上土についても詳しくなれたし、地域の方とお店との結びつきも生まれてきていると思います。これからは、情報発信を通して、もっと地域が賑わってくれば嬉しいです。

増澤宏

「あやめ」を発行することによって、地域の方の仕事や取り組みについて深く知ることができ、大きなイベントができない状況下ではありますが、しっかり地域と関わっていているなど感じています。これからも上土の魅力を再発見できるような紙面を発行していきます。

木村彪雅

白戸ゼミの活動は関わっている人には分かりますが、関わりの少ない方にはなにをしているんだろうと思います。ですがこの「あやめ」を通して自分達がどのような活動をしているのか、どんなことに興味を持っているのかを知ってもらえる機会になっているのではないかと思います。これからの活動に期待しながら「あやめ」を楽しみにしていただければと思います。

白戸先生のコメント

あやめはコロナ禍で自分自身が孤独に直面し人とのコミュニケーションの大切さを痛感した学生が、人と人を結びつける手段として考えた取組です。あやめを製作する中で上土の色々な方々との対話を通じて街の新しい魅力に気づいているようです。コロナ禍で何もできないと諦めずに彼らなりの地域との向き合い方を模索していますが、このような状況だからこそできる学びがあると思います。未熟な彼らではありますが今後ともよろしくお願いします。



発行：松本大学 白戸ゼミ

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。松本市上土通りにあり、地域の芸術活動の拠点となっている“上土劇場”。そんな上土劇場を知っている方も多いのではないのでしょうか。今回、ミニコミ誌「あやめ」では歴史や現状、演劇についてなど様々な角度からみた“上土劇場”を紹介していこうと思います。

今回の情報

上土劇場

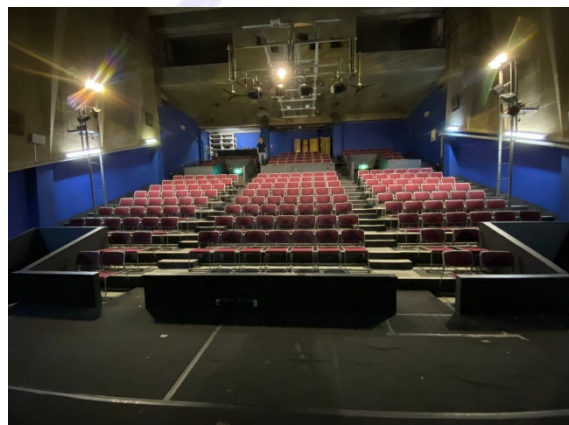
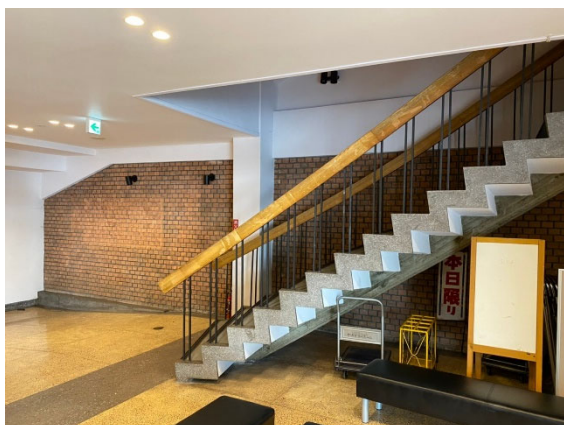
上土劇場の歴史

上土劇場は昭和30年代前半に建てられた映画館「松本ピカデリー」が始まりで、洋画の新作を専門に上映していました。当時、松本には映画館が多くあり映画産業は発展していましたが、今から23年ほど前には廃れていきました。そんな中、松本ピカデリーは使い道を模索し始め、松本は演劇の祭りが行われたり、全国でも小劇場ができはじめたりなど演劇が盛り上がり始めたことがきっかけで映画館を改装し劇場が誕生しました。また、名前は今から2年前に「上土劇場」になり、それ以前は「ピカデリーホール」と言われてました。名前を変えることでより劇場感が表れていますね！



上土劇場で行われていること（日常）

劇団の公演をメインにライブやお笑い、企業の会議や地元のカラオケ大会など様々なイベントの会場として使用されています。また、毎年12月に「信毎クリスマスシアター」という信毎の購読者向け無料イベントや一般の人向けの演劇を活用したワークショップも行っています。毎年行っている公演も含めて市民の有志による劇団やプロを問わずに色々な公演を行っております。皆様もぜひ足を運んでみてください。



上土劇場の現状

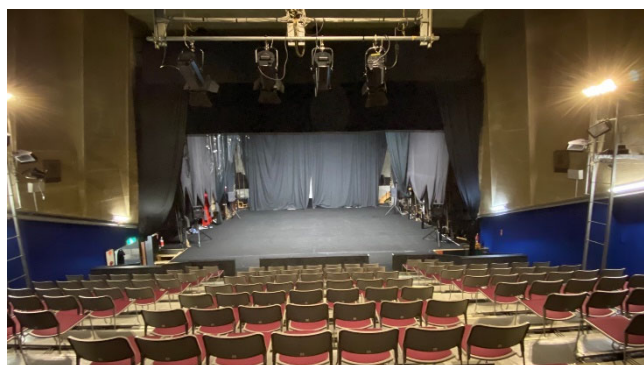
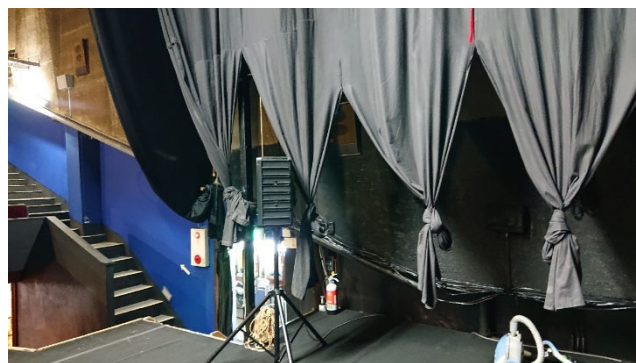
新型コロナウイルスにより3月下旬からの予定は全てキャンセルとなり、現在も一部を除いて今年度の予定はほぼない状態です。そんな厳しい状況の中でも演出家の強い要望によって市民芸術館の劇団が公演を行ったり、松本蟻ヶ崎高校演劇部顧問の「3年生の発表の場が失われているので最後の発表をしたい」という想いに応えたりしています。公演時には座席数を半分に減らす、最前列の方たちにはフェイスシールドを着用する、全員の検温や体調チェックなど対策をとり開演いたしました。

現状、公演数は減っておりますが、公演以外でも上土劇場は利用できるので新型コロナウイルスの対策をした上で皆さんご利用ください。

今後について

現在の劇場使用予定は10月10日に市民グループ主催による公演「流れる雲」、10月18日に市民有志主催によるイベント「花月の宴」を開催予定です（今後の新型コロナウイルスの状況により中止の可能性があります）。また、昔のように色々な映画を上映するイベントの復活や町会の人向けの映画祭をしたいと思っております。若手経営者や学生もどんどん参加して下さい。

劇場の主催でやりたいと考えている企画は新型コロナウイルスの影響もあり予定としては立っていませんが、まずは今までやっていたワークショップから派生しての公演を行うことを主体としない劇団の設立をしたいと考えています。普通の劇団は公演を行うことが一番の目的でありそれが目標や達成感に繋がりますが、色々準備が大変なことやプレッシャーになることもあり敷居が高くなってしまいます。なのでもっと気楽に演劇が好きな人たちが趣味として楽しめるようなものとして



このような劇団を作りたいと思いました。それ以外にも上土をはじめとして松本にはお年寄りが多いためその人たち向けの演劇大学の開催、子供のいるファミリー向けの演劇の開催などの企画もしていきたいと考えていました。

コロナ時の対策

公演を行う場合は入場制限や体調チェック、座席数の減少など感染症の基本的な対策をして感染予防に努めています。金銭面の対応としては、「全国小劇場ネットワーク」という団体のクラウドファンディングを実地しました。最終的には2か月間で1200万円ほどを集まり、それを各劇場に分配して補償に回す形での対策をとります。またこのクラウドファンディングで寄付してくれた人へのお返しには各劇場に名前を記載したポスターなどを掲示する予定です。完全に善意での寄付に支えられている形となります。またこのクラウドファンディングは新聞や地方のテレビに取材をしてもらえ、注目度は全国でも高い方となりました。結果として参加してくれた人たちの多さや金額としても全国47都道府県で東京や愛知などの都市部に次ぐ4位となっており、長野県での演劇文化の盛り上がりを感じました。

金銭面での他の補償としては、長野県のコロナによる休業をしたお店などへの補償金30万円の申請をしましたがこの補償金とクラウドファンディングの分配されたお金を足しても100万円未満です。支配人の永高さん曰く「これだけで何とかなる業種はないだろう」とのことでした。

演劇について

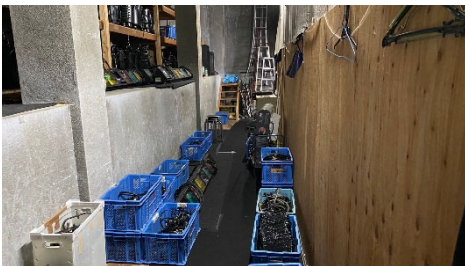
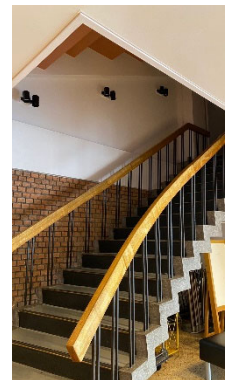
長野県、特に松本市は演劇などの文化のレベルは比較的高い方に位置しています。中でも市民芸術館はクオリティが高く、ヨーロッパの方にあるような劇場と比較しても劣っていません。また、松本には民間の劇団が20以上あります。他の都道府県では京都や東京では演劇が盛んに行われています。松本はそんな都会にも引けをとらないレベルの高さです。

日本では「美術」「音楽」は義務教育での履修が求められていますが「演劇」はありません。他の先進国では「演劇」も教育の中に取り入れられている所がほとんどです。演劇は世の中で求められているような、自分を表現すること、プレゼン能力、考える力、コミュニケーション力を養う上でも注目されており、文科省や世の中の風潮も少しずつ近づいてきています。大学入試の改革など、これからは暗記が中心のテストではなく自分で考えて行う問題が中心となってきており、演劇を教育に取り入れていくチャンスであると思います。反面、授業として取り入れられない理由の中には指導できる人間が圧倒的に足りていないなどの理由があげられています。新型コロナウイルスが流行してからはオンラインで劇のライブ配信なども行っていますが、劇場で見るように料金を取れないため、採算が取れず金銭的に厳しい劇団が多いです。また画面越で見ると魅力が伝わりきらないので、ぜひ生で見てください。

支配人からのメッセージ

「10/18の市民の有志によるイベント花月の宴は劇場を使って何かをやりたいというお話から始まったもので、内容はカラオケや三味線の演奏から物販まで様々です。このように劇場を劇だけではなく様々な使い方をしてもらえるので是非とも色々と活用してもらいたいです。また劇場になじみがなかったり使ったりしたことのない人には敷居が高く感じるかもしれませんが全然そんなことはないので気軽に使ってほしいです。」

上土劇場



上土劇場HP
<http://age-geki.jp/>

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。
 このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。
 アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。
 この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。



発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：小林・増澤・峯村

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。松本市の上土にある「松本ホテル花月」。皆さんもホテルの前を通ったりすることはよくあると思います。ですが意外と詳しくは知らない人も多いのではないのでしょうか。今回のミニコミ誌「あやめ」では、歴史や事業内容だけではなく経営者の思いなども交えて「松本ホテル花月」の紹介をしたいと思います。「松本ホテル花月」の専務取締役である松岡一成さんにインタビューをしました。

Topic

- 花月の歴史
- ホテルのこだわり
- コロナからの変化

花月の歴史

創業明治20年(1887年)で130年以上の歴史があります。開業当初は「旅人宿」という名前で、8部屋ほどの民宿として営業していました。1959年に発生した伊勢湾台風による女鳥羽川氾濫の影響で、開業当時の資料が水没してしまったため今の名前になった経緯については不明ですが、「旅人宿」→「松本ホテル花月旅館」→「松本ホテル花月」と名前が変わりました。

花月という名前のホテルは「なんばグランド花月」など同時期にできたホテルの名前としてはよく使われています。なぜ松本ホテル花月がこの名前にしたのか正確なところは分かりませんが、専務の松岡さん曰く「金のなる木」の別名でもあることも関係しているのではないかとのことです。金のなる木は硬貨に似た丸い葉っぱをつけることから、「幸運を招く」という花言葉があり、中国では金運や繁栄を招く縁起の良い植物とされています。

現在の事業内容としては、創業当時からのメインである宿泊業のホテル運営は勿論のこと、付随してホテル内にあるレストラン「ikaza」と喫茶店「八十六温館」の運営を直営で行っています。それだけではなく少し離れたあがたの森公園内の旧制高等学校記念館内のカフェの運営もホテルが行っています。



住所：〒390-0874 松本市大手4-8-9

TEL：0263-32-0114



松本ホテル花月公式ホームページ

www.matsumotohotel-kagetsu.com

このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

ホテルのこだわり

ホテルの一番の特徴でありこだわっていることは、松本民芸家具の使用です。ホテルの備品に多くの松本民芸家具を使用しており、専務の松岡さん曰く「おそらく世界で一番多くの松本民芸家具を使用している。」とのことでした。中でもフロントの受付などを行うカウンターは特注で作られている特別なものであるとのこと。今では職人の不足や需要の増加もあってここまで多くの松本民芸家具を揃えることは出来ないと言われています。

また旧館は内装も民芸家具の雰囲気合うようにデザインされており、このデザインは松本民芸家具の創始者である池田三四郎氏のものです。

民芸とは「民族工芸」の略で、ただのブランドや物のことを言うのではなく身近で長く使い続けたものに込められた思いや親しみなどのことも含めて民芸というのではないかと松岡さんは考えていらっしゃるとのこと。松本民芸家具は使い手次第では100年使えると言われています。長く使って年季の入ったものほど、椅子の手を置く部分などのすり減り方に特徴があるなど、味が出てより温かみを増していると感じました。ホテルではお客様に民芸の温かさや親しみやすさを感じてほしいとの思いがあります。せっかく遠方からお越しくださった方に松本民芸家具の良さを体感してもらいたいのは勿論ですが、旅の疲れを取るために一番くつろげる自分の家に近い感覚で、ホテルを利用してほしいという思いも込められています。



旧館にある喫茶店「八十六温館」

松本民芸家具とは、池田三四郎が昭和20年代に日本民芸の祖と言われる柳宗悦と出会い、柳氏の願いであった松本の木工業の民芸による復興をしてほしいという思いを受けて家具作りを始めたことが始まりである。

松本民芸家具の特徴としては、美しく完成されたデザイン、確かな作り、年を経るごとに味わいを増す無垢の素材による温かい印象のある家具です。機械化、経済効率のみの近代化を良しとせず、人間生活ともっとも密着している家具の性格そのものに着目し、けっして人間不在のものにならぬよう必要な部分に可能な限り手仕事にて製作しています。デザインも長い歴史の中で愛され続けている東西のデザインを踏襲しつつ、現代の生活に会うようにしておりバリエーションも豊富です。素材はミズメ（ミズメザクラ）を主要材として、檜、杉、桐などそのすべてが日本国内産の落葉高木によって生産されています。

※松本民芸家具公式サイトより

新型コロナウイルスによる変化

コロナ禍になる前はインバウンドの中でも特に欧米豪の人たちの誘客に力を入れており、実際に昨年の宿泊客の45%は外国の方でその内の7割は欧米豪の人たちでした。これらの地域の人たちは観光の際にその土地の歴史や文化を大切にしており、松本の城下町の文化や歴史との相性も良く多くの方が訪れていました。しかしコロナが深刻になり始めた3月ごろからは、海外との渡航が制限されたことなどもありインバウンドのお客は実質0%となりました。



松岡一成さん(写真中央)

またホテルの営業自体も4月の緊急事態宣言の発令による長野県の休業要請を受けて4/19~5/20まで閉館していました。またその前後は客室稼働率が10%ほどしかなく、営業するほどに赤字になってしまうという状況でした。その後の5/21から開館しましたが、未だにコロナの状況がどうなるか不透明な部分もあり厳しい状況が続いています。松岡さん曰く、松本市のホテルは似たような状況の所が多く、客室の稼働率が5%程度しかないようなところもあるだろうとのことで、全体的に厳しい状況であるということが伝わってきました。現在はGoToトラベルキャンペーンなどにより多少の持ち直しはしているとのことですが、依然業界の方は危機感を持っているとのことでした。

コロナ後の感染予防や経営面での対策としては、まず感染予防の面では休業中の5/8に「KAGETSU CLEAN PROGRAM」というものを作成しています。これは利用者の安心安全を守るために、チェックイン時の利用者の体調確認、大浴場やレストランなど施設ごとに行っている様々なコロナ対策を示したものです。

その他にも宿泊予定のお客様から問い合わせなどがあつた際は、しっかりと感染予防の対策や体調管理などをしたうえで来館や観光をしていただくように案内しています。5/21の再開以降、県外のお客様もある程度は来館されていらっしゃるようですが、それに合わせて特に関東圏の宿泊予定のお客様からの問い合わせが多くなっています。内容は「県外からだが来館しても大丈夫なのか」や「何に気をつけるべきか」等のようなものが多く、多くの人たちが対策や来訪に慎重に気を使っていることが分かりました。

これらの独自の感染予防の為のルールや取り組み作りと県などのガイドラインの徹底などをすることで、お客様だけではなく地域の方にも安心してもらえるような取り組みをこれからも行っていくとのことでした。

経営面での対策は、3月頃から秋の修学旅行の誘致に力を入れています。以前から少しは呼び込みの為の広告はしていましたが、より力を入れて大手の旅行会社などにも広報をしました。結果として10月には現在のところ多くの修学旅行生の受け入れを予定しています。その宿泊した修学旅行の学生たちが外でお店に寄り、松本を気に入ってリピーターになってもらうことなどで松本のまちが経済的に潤えばと考えています。また来年以降のコロナの状況が良くなったとしてもインバウンドなどを早期に回復できるかは怪しいと考えているので、国内での需要あるターゲットとしても「修学旅行」はとても大きいものであると思います。

松岡さんはこの8月にシステム開発などを行う会社を設立し、松本に訪れた修学旅行生向けのアプリの開発などを企画しています。詳しくはまだ言えませんが、松本のまち歩きなどで活用してもらうようにゲーム性を高くしたものにしたいと言います。アプリ内が仮想現実であることを活かして今のご時世のリアルでは交流しづらい状況などの補完にもしていきたいとのことでした。アプリはまち歩き用のものなのでホテルとは直接関係ありませんが、まちの活気がなければホテルにも人は来ません。まちを盛り上げていくことがまち全体だけではなくホテルの利益にもつながると考えているとのことでした。

松岡さんからのメッセージ

「松本というまちは人も企業も強い、活動している人も私たちだけではなく沢山います。簡単に潰れてしまうようなまちではありません。しかし1人や1施設でできることには限りがあるので、まち全体で協力してこの困難を乗り越えていければ日本一のまちになれるポテンシャルがあると信じています。皆で頑張っていきましょう」

編集後記

今回紹介した「松本ホテル花月」は温泉街と呼ばれる場所には立地しておらず、観光客に人気の理由が気になっていました。人気の温泉街というのは、外湯のある野沢温泉や渋温泉など旅館に到着した後でも温泉街を歩きまわり、楽しめる場所が多いように思います。その点ホテル花月は松本城などの観光地があり、飲食店なども多く到着後も確かに楽しめるなど感じました。

ホテルのPRも雑誌などの書籍を中心に行うなど、紙媒体で手に取ってもらう方が民芸の良さをそこから感じられるのではないかと民芸に強いこだわりを持っていることが分かりました。ホテルだけが魅力的に、まちだけが魅力的になるのではなく、まち全体として協力していくことでふれあいあふれるまちになっていくことを感じました。





発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：泉山 青木 海谷

こんにちは！松本大学白戸ゼミです。秋の夜長、皆様いかがお過ごしでしょうか。最近
は日が沈むのも早くなり寒さが日に日に増しています。健康には気を付けてお過ごしくだ
さい。

今回はノセメガネの専務取締役の能勢智子さんにお話をお聞きしました。

お店情報「ノセメガネ 上土町本店」

ビジョンケアを大切に、幅広い年代の方の「視る」問題改善に取り組んでいるお店です。

地域の人に愛され創立80年をこえました。上土町本店を中心として県内に9店舗展開
しています。

お店の概要

住所：松本市大手 4-4-3

営業時間：10:00 - 19:00

定休日：年中無休（年始を除く）

駐車場：店舗東側に5台分あり

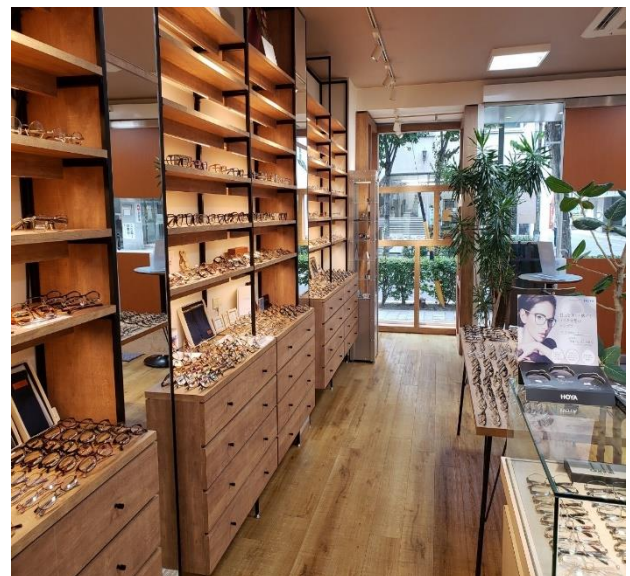
眼を中心として専門的な知識を持って、お
客様一人一人の「視る」問題に対して適した
支援を行うことを大切にしており、地域の人
から支持されており常連のお客さんも多いお
店です。

また、ファッションとしてのメガネにもこ
だわっており、他店では入手しにくいトレンドやデザイン性に優れたフレームを多数取り
扱っています。

補聴器にも力を入れており、聴力の検査を店内で行うことができるため、どなたでもお
気軽に相談することができます。

ご来店の際には消毒液の設置、機器の消毒などを行っているので新型コロナウイルスへ
の対策も万全です。

ホームページ：<http://www.nosemegane.co.jp>



このQRコードは、アクセス解析のためにCookieを使用
しています。

アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定する
ものではありません。この機能はCookieを無効にする
ことで収集を拒否することができますのでお使いのデ
バイスのブラウザの設定をご確認ください。

お子様向けの商品など、幅広い年代の方に向けた商品を取り揃えています！



ビジョンケアとは

ビジョンケアとは、簡単に言うと「人がものを見る機能の保護・育成」のことを指します。

弱視や近眼、遠視、乱視、老眼など子供からお年寄りまで、幅広い年代の方が抱える「視る」問題の改善を支援するためにノセメガネでは様々な取り組みを行っています。

見え方には個人差があるため、目を中心とした人体についての知識や、光学的な知識を学んだ、店員が一人一人に合わせたアドバイスや支援を行っています。

そのため、ノセメガネでは多くの店舗を展開するよりも既存の店舗で人を育成することに力を入れています。

また、実際に来店してもらうことでその人に合った商品を提供することを重視しています。

ノセメガネでは、ビジョンケアの取り組みとして、最先端マルチフォーカス（遠近両用累進レンズ）販売やオーダーメイドのレンズ作成、紫外線量をコントロールすることでまぶしさを軽減するレンズの販売などを行っています。



ノセメガネの歴史

ノセメガネは、能勢豊氏によって「上土で人の役に立つ仕事をしたい」との思いから創設されました。

能勢豊氏は、東京の村田眼鏡店で当時新しい考え方であった、ビジョンケアについて学んだ後、上土で昭和12年にノセメガネを開業されました。

地域の人役に立ちたいとの思いから、文化的な取り組みへの支援も積極的におこなっていました。

昭和26年に株式会社ノセ眼鏡店となりました。



その後、2回の移転を経て、昭和36年に現在の場所に移転しました。

また平成元年に一度目の改装を行い、平成27年の4月に二度目の改装を行うことで現在の姿となりました。

県内に9店舗ありますが、いずれも地域のお客様を大切に、地域に愛されるお店を目指して活動しています。

メッセージ

変化することを恐れず、様々な人たちに受け入れられる上土町だからこそ、今までやっていくことができました。

現会長である能勢頼明が「上土は、新しいことと古いものが調和し共存している街で、そこに受け入れられ商売できる事を誇りに思っている。」と常々申しております。

新しいことを積極的に取り入れる上土町で、私たちも様々なものを積極的に取り入れながらこれからも地域に愛されるお店として頑張っていきます。

変化するお客様のニーズに合わせて変化を恐れず取り組んでいきますのでこれからもよろしくお祈りします。

コロナへの対策も万
全です！
ぜひ気軽にお立ち寄
りください！



情報提供のお願い

松本大学白戸ゼミでは、取材と情報提供をお願いできるお店を募集しています。
また、～のこと知りたい、〇〇について調べてほしいなど、地域のことので気になること等ありましたらお寄せください。

※応募方法：matsu.machi2020@gmail.com に件名「あやめ意見応募」で送信。

又は、カフェ上土に設置してある回収ボックスに投函してください

地域をつなぐ「あやめ」をよろしく願っています

松本大学 白戸洋

松本大学白戸ゼミナールの4年生の学生が「あやめ」の発刊を始めてから5か月がたちます。コロナ禍の自粛生活の中で自分自身が孤立や孤独を経験し、人と人がつながることの大切さや難しさを身をもって感じたことが始めた契機となりました。スマホやネット、SNSなど直接面と向かって出会うことなくつながりを築いてきた若者たちが、直接人とはなすことができないことで、直接人とコミュニケーションをとることの大切さを感じたことが「あやめ」の取り組みの契機となりました。

当初は自粛期間であったこともあり、上土のお店の情報を伝えることが主たる目的となりましたが、徐々にそれが緩和されるにしたがいむしろ上土に住む人や商売をする人が何を思い何にこだわっていらっしゃるかという街や人の有り様を掘り下げて伝えることに変化してきました。人を通じて上土という街の姿を捉えていくことが「あやめ」の役割となっています。

「あやめ」の取材を通じて学生たちは上土の方々が街に対して強い愛着や思いをもっていることを感じています。今回の「ノセメガネ」の取材においても、上土を発祥の地として大切にしていることを教えていただきました。そして若い人や個性的な人が多く新しく上土にお店を出していて、これからもっと個性的で魅力的な街になっていく可能性についても語っていただき、学生たちも嬉しい気持ちになったようです。商売を通じてまちづくりを見据える方々が多いことも「あやめ」の取材を通じて分かってきたことです。



また「松本ホテル花月」や「上土劇場」の取材ではここに住んでいるけれどあまり知らなかったという声を住民の方からも頂き、街を再発見するきっかけとしても「あやめ」の役割があることもわかりました。

松本大学も後期からは対面の講義となり、学生も感染予防を徹底したうえで街に拘わらせていただくつもりです。特に前期の間はほとんど街で滑動ができなかった3年生の増尾ゼミ、向井ゼミの20名の学生はこれから上土との関係を築いていきたいと思っています。

3年生にも「あやめ」づくりに関わってもらうことで、学生とまちの関係づくりにつなげていきたいと思っています。

今後とも宜しく願っています。



発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：大塚 海谷 木村 小林

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。最近秋が深まって参りましたね。

いきなりですが、皆さんはお昼から日本酒を楽しみたいと思ったことはありませんか。今回は昼間から豊富な地酒を楽しめる酒パブ「THE SAKE PUB SHINSHU MATSUMOTO」オーナーの住吉久典さんとマスターの洞澤昇明さんにお話を伺いました。

THE SAKE PUB SHINSHU MATSUMOTO 概要

営業時間：13：00～19：00 (L.O.18:00)

定休日：火曜日、水曜日

住所：長野県松本市大手 4-3-15



HP



Instagram



QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。

この QR コードはアクセス解析のために Cookie を使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。

この機能は Cookie を無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

歴史

2018 年にオープンし、オーナーが始めた時の営業時間は 11：00～18：00 でしたが、今は営業時間を午後からとし閉店時間を伸ばしました。去年 5 月 25 日にリニューアルオープンし、様々な部分がマスターの意向によりカスタマイズされました。「THE SAKE PUB SHINSHU MATSUMOTO」の由来は、横文字にすることで海外の方が気軽に入りやすくするためです。また、パブと付けることで外国人の方が入りやすくなっています。



こだわり/特徴

「昼間から日本酒の飲める喫茶店」。この言葉からも分かるように、気軽に入りやすい雰囲気。日本酒の良さを分かってもらうスタイルで、日本酒が苦手な人でも自分にあった日本酒を見つけることができます。日本酒のメニューは45種類！長野の日本酒にこだわり、ゆったりとした雰囲気のなかで楽しめます。また、営業時間が昼間なので海外の方が慣れない日本で夜に出歩く時より安心感があります。外国人の方との会話のきっかけになるように地球儀が置かれていたり、レコードがあつたりと小物や雰囲気にも着目してみてください。

女性のお客さんも多く、一人でこられる方も多いです。家に帰る前に少し飲んでいく方や飲み会前の空いている時間に飲んでいく方など様々な方がいます。お客さん同士がお店で親しくなることも多く、その後も他の店舗で一緒に飲んだり、カップルができたりすることもあります。



現状

お店にはいろいろな人が訪れ、話をしていくので様々な情報が集まります。立地は偶然にめぐり合った場所だったが、人の流れがあり、いい意味で静かな場所だったと感じています。昼間の営業なので女性も安心して入れ、お客さんの約半数の54%は女性となっています。地元の方も来てくださっています。おひとりでいらっしゃる方や、空き時間にいらっしゃる方など様々なお客様が来店されています。



現在は新型コロナウイルスの影響により来られない方が多いですが海外のリピータも多いです。特に新型コロナウイルスが流行する前はヨーロッパの人たちを中心にインバウンドで訪れる方が多くいました。店名を横文字の外国人向けにしたことで入りやすかった人も多いです。国内のお客様でも他県の人などはまたお店に来てくださっているのでも、海外のお客様も新型コロナウイルスが収まったら戻ってきてくださると信じています。

マスターのおすすめのお店などをセレクトしたパンフレットを制作しており、お客様などに配布しています。現在では「自分のお店ものせて欲しい」という要望もあり、もっと多くのお店を載せたパンフレットを新しく制作する予定です。他店とお客さんを紹介しあうことでお客様の流れを循環させていきたいです。

マスターの思い

縁があり松本で「THE SAKE PUB SHINSHU MATSUMOTO」をやっています。あと5年ほどは自分がお店に立ちたいと考えていますが、お店自体はある程度の形ができており次の人がやってもしっかりとできると考えています。お店は熟していくものだと考え、次にしっかりと繋げていくためにも今をやっています。

長野県は酒蔵が多いのでお店では売り切れないほどにお酒の種類が多いです。なのでセレクトしている蔵元への責任があると思いつながりながら運営しています。また、観光では地酒を飲んでもらうのが一番だと思いつながりながら運営しています。また、観光では地酒を飲んでもらうのが一番だと思いつながりながら運営しています。また、観光では地酒を飲んでもらうのが一番だと思いつながりながら運営しています。



メニューに迷ったらマスターに聞いてみてください。あなたに合わせてお酒を選んでくれます。日本酒初心者さんにも甘い辛い関係なくおすすめは沢山あるそうなのであなたのお好みや気分にあったものがきっと見つかります。また、日本酒そのままのおいしさがわかります。

観光面からみて

松本は歩いている人が少ないのにお店が多いと驚く観光客が多いです。お店の周辺でUターンしてしまう観光客がいると感じ、観光客の多い場所ではお店が成り立つが些か厳しいのが課題だと感じています。

昼間にゆっくりと飲める場所がなかったが、飲みたいという声に応え、観光案内所のような役割も兼ねて「THE SAKE PUB SHINSHU MATSUMOTO」スタートしました。昼飲みは、現在は文化になっていると感じており、昼のみの良さに気づいて夜に飲まないお客さんも多いです。お客さんが他の昼飲みができるお店と循環することである種のコミュニティとなっているように感じます。

《学生から》

新型コロナウイルスがまだ収束しない世の中で、どうやって地域を盛り上げていくか、活性化させていくかは私たち学生の課題でもあると考えています。若者の視点で見て、考え、一緒に地域を盛り上げていきたいと考えています。

日本酒について

長野県は日本で2位を誇る蔵の数です。日本酒の産業は新しく酒造を作る許可が下りることはないといわれています。なのでお金だけあっても新たに事業を始めることはできません。新しく事業を始めたい場合は権利を譲ってもらうなどするしかありません。長野県は日本酒のほかにワインも有名ですが、ワインは新しく営業許可もおります。また、長野県で行われている品評では日本酒は減点方式、ワインは加点方式です。ワインは、日本酒とは別に勢いのある産業であり、若い人がやっていることも多いです。日本酒は日本の文化でもあるので若い人にも知っていただき引き継いでいってほしいです。



日本酒は基本的に大切に造ったものは辛く仕上がります。もちろん、最初から甘くすることを前提として造るものもありますが、造る過程で甘くなってしまったものも存在しています。いいお酒は違いがわかります。提供の仕方でも同じお酒に美味しさの違いが生まれます。若い時にいいお酒に触れておくことは大切で、美味しさは記憶に残ります。また、日本酒との出会い方や飲むときのシチュエーション次第で日本酒に対する印象はいい意味でも悪い意味でも変わっていきます。

新型コロナウイルス対策

居住地での入店制限はありません。出入り口にアルコール消毒の設置、テーブルや椅子、トイレなどの消毒作業、換気扇の利用などをおこなっています。安心してご来店下さい。

メッセージ

・オーナーからのメッセージ

「歴史があるまちでやらせていただいているので周りの店舗とも協力しながら一緒に栄えていきたいです。また、昼からやっているのので来てください。」

・マスターからのメッセージ

「人と人を繋げたいです。色々な人に出会えるため本当は人と話したい人、仲良くなりたいたいと考えている人、美味しいお酒が飲みたい人、人と繋がりたい人、歓迎です。女性が1人で来ても安心で、楽しんでいただけます。」



発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：小林・増澤・峯村

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。11月になり寒さがさらに増してきました。そろそろ暖房器具も出し始めた頃でしょうか。インフルエンザが流行り始め体調を崩しやすい季節でもあります。体調には気を付けてください。

さて、皆さんご存知の通り上土をはじめとして松本市は歴史的な建築物や文化がとても多い街です。中でも松本城は松本市のシンボルとして広く知られているお城です。今回はそんな松本城周辺を人力車で案内している小泉容一さんにお話を伺いました。



人力車の基本情報

営業時間	基本は 9:30～16:30 ※予約状況や松本城の人入りによって変わります
定休日	火曜日 ※予約が入れば営業
営業期間	今年度は通年営業予定 ※例年 12、1、2 月は休み
コース (所要時間)	① 松本城内堀往復 (20 分) ② 松本城内堀・外堀経由の一周 (30 分) ③ 国宝開智学校行き (35 分) ④ 松本城から縄手・中町周辺を回る (50 分) ⑤ 松本城から駅もしくは美術館まで (20～25 分)
料金 (1 人用・2 人用)	① 1000 円・1800 円 ② 1500 円・2500 円 ③ 3500 円 (行きのみ、人数関係なし) ④ 3500 円・6000 円 ⑤ 3500 円 (人数関係なし) ※2020 年 10 月現在

人力車を始めたきっかけ

人力車は、上土の増田さんが代表を務める「松本人力車の会」で所有するものを使っています。小泉さんは東京出身ですが、親が松本の出身であり、子供のころから松本にはよく来ていたとのこと。9年前、親の都合もあり松本に引っ越してきました。そして「松本ぼんぼん」に参加したいと「松本おかみさん会」の連に参加した際、増田さんと知り合い、人力車の車夫の仕事の話を頂いたのが始まりでした。

増田さんは松本城400年祭りのときに、松本市の観光振興の一助にと「松本人力車の会」をつくり、松本城で人力車を走らせることを始めました。車夫は学生アルバイトで運営したそうですが、年を重ねるごとにアルバイトが集まらず常時運営することが難しくなっていたそうです。9年前、松本に帰ってきたばかりの小泉さんに結婚式の折、新郎新婦さんを人力車に乗せ市内を走るバイトの話が来ました。それ以来何回か車夫の仕事をするうちに面白くなり、本来の目的であった観光振興ということもあり、現在のように松本城に常駐するようになりました。



人力車を引く中での出来事

小泉さんが人力車をはじめてみて感じた面白さや楽しみとしては、一つは喋っていて楽しいということです。人力車をはじめてたのもきっかけとなって、歴史関係の知識を得ることなどが趣味となっており、自分の得た知識や好きなことを沢山誰かに喋ることが出来るのはとても楽しく、話を聞いたお客さんのリアクションが良いと、とても嬉しいとおっしゃっていました。また、ガイドをするために色々な知識を得るのも楽しみのひとつであるとのことでした。

反対に苦労していることとしては、(小泉さんはお一人で人力車の営業をされているため)お客さんを一度に1組しか乗せることが出来ないのも、予約状況によってはスケジュール管理などが大変になるということです。前のお客さんの到着が(公共交通機関の遅延などによって)遅れることで次のお客さんへ影響が出ることを防ぐために、電子メールなどで

万が一遅れてしまったときの対応などについてご理解を頂いています。その他にも体力面での問題もあり、一部の坂になっているコースでは（息切れしないように）喋りと走行のバランスを考慮していることなども苦労されている点として挙げてらっしゃいました。

人力車を始めて思ったことやあった出来事として、松本城にはボランティアガイドの方が多くいることに驚いたそうです。ボランティアガイドの方と解説する内容は極力被らないように気を付けており、その為にも色々な知識を仕入れているといます。人力車を始めるころに、増田さんや周囲から松本の歴史の本などを紹介されてそれを読むことや、自分で図書館に行き調べることで知識を増やしたそうです。また、



お客さんから質問されることも多く、あとできちんと調べることで次回にはしっかりと説明できるように知識を増やしているとのことでした。

お客さんは一昨年までは日本人の割合が 8 割でしたが去年は半分が外国人となっており、急に増えた感じがしました。松本に来る外国人はアジア圏の人が多いですが、人力車を利用するのはアメリカやオーストラリアから訪れた人が多いです。外国人に案内をするときは各武将に対する説明や歴史背景を詳しく説明する必要があるため、日本人に対して説明するときよりも難しいとのことでした。

コロナ禍において一時営業を休止していた時期もありましたが、今は営業できているようです。

今後について

小泉さんは出来るだけ長くこの仕事を続けていきたいと思っており、具体的には以前にテレビで見た 75 歳まで人力車を曳いていた方よりも長く続けていければいいと思っています。また、現在はリピーターの方が何回も乗ってくれると同じ話をガイドでしてしまうこともあるので、5 回や 10 回乗ってもらっても毎回違う話ができるように話のネタを増やすためにも知識を増やしていきたいとお考えをお持ちでした。

松本のまちに対して

歴史が深く調べれば調べるほどに、いろいろな史跡や資料が出てきてとても良いと感じました。松本はのんびりとしており、都会に比べると緊張感がなくリラックスできます。いろいろと手助けしてくれる人も多く、人が良いと思っているとのことです。

メッセージ

知らない方もいっぱいいると思うので、機会があったら是非声をかけてください。いつも助かっています。ありがとうございます。

編集後記

10 月 16 日に行った今回の取材では、ご厚意により人力車に乗せてもらいました。小泉さんからは人力車で松本城を一周しながら、松本城の歴史やうまく写真を撮れる場所、松本の湧水や神社についてのお話をしていただきました。どのお話も興味深くあっという間の時間でとても楽しかったです。松本の歴史などに興味のある方は勿論、無い方でもいつも通る道が人力車に乗ることで違った楽しみ方ができると思います。是非乗ってみてはいかがでしょうか。

ご予約に関しては「松本人力車の会」で検索ください。



人力車に乗った感想

今回人生ではじめて人力車というものに乗りましたが、想像していたよりもずっと快適な乗り心地でした。乗りながら眺める松本城の風景は徒歩の時とはまた違い、とても新鮮な気持ちでゆったりと見ることができました。ガイドでお聞きした話は松本に住んでいても知らなかったことも多く、観光客だけでなく地元の人でも楽しむことができると感じました。

松本人力車の会
Facebook



このQRコードはアクセス解析のために Cookie を使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能は Cookie を無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。



発行：松本大学 白戸ゼミ
編集：青木 泉山 大塚

こんにちは、松本大学白戸ゼミです。朝晩の冷えが厳しくなってきましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。これから本格的に寒くなるため、暖かくしてお過ごし下さい。鍋などが食べたくなる季節となりましたが、冬に向けて体を暖かくする料理としてスパイスを活用したアジア料理はいかがでしょう。今回は、ネパール、インドの料理を中心にアジアの多国籍料理を提供している Asian Station 店長のジーワンさんにお話を伺いました。私たちもお店の前を通るだけでスパイスのいい香りが漂い、食欲がそそられ、そんな料理やお店についてお話を伺える機会がとても楽しみでした。

Asian Station 概要

営業時間：ランチ

11:00~15:00 (L.O.14:40)

ディナー

17:00~20:00

※金曜日、土曜日は 21:00 まで営業中

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため営業時間短縮中

定休日：水曜日

住所：長野県松本市大手4丁目3-20

電話番号：0263-55-0644

デリバリー：お昼に受付（要相談）



チキンビリヤニー



Facebook

<https://m.facebook.com/asianstation2019/>



Instagram

https://www.instagram.com/matsumoto_asianstation/

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。

このQRコードはアクセス解析のためにCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。

“Asian Station”名前の由来

「Asian Station」は直訳すると「アジアの駅」になります。駅は国籍を問わず色々な人が集まる場所です。国籍問わず多くの人が集まる場所をイメージして「Asian Station」と名前を付けました。

なぜ松本でお店を始めたのか

松本でアジアの美味しい料理を提供したいと考え始めました。松本はおもしろい通りが多いです。そんな松本の隠れたお店をイメージしています。松本市民の方、海外の方に多く来ていただきたいです。英語にも対応しているので海外の方にも安心してご来店頂きます。また、違う味を求めている人にもおすすめです。南アジア原産の本場スパイスを使用した本格スパイス料理が楽しめます。



上土地区は、出身地に囚われず幅広い人・もの・文化を受け入れる地域であるため、ここでお店を開こうと思いました。また、様々なお店が協力しながら、商売することができるため、非常に過ごしやすいです。上土では皆さんが仲良くしてくれ、様々なことを教えてくださいるのでとても助かっています。

観光客の方、地域の方ともに多くの人を訪れる縄手通りで本格的なアジアの多国籍料理を提供することで、多くの人にスパイスの魅力とアジアへの関心を持つきっかけになって欲しいと考えています。

こだわり

子供から大人まで誰でも食べられるスパイス料理！
本場のスパイスを使用した本場の料理！

《料理のこだわり》

提供する料理は素材にこだわっています。添加物・着色料などを一切使用せず本場のスパイスを使って調理しています。シェフは本場の経験を活かして調理しており、海外から直接仕入れた様々なスパイスを使用することで、健康に良く、本場の美味しい味を提供することを大切にしています。

豆知識：本場ではスパイスは風邪の予防にもなるといわれており親しまれています。

《お店のこだわり》

松本の知り合いや仲間に地元の料理を紹介、スパイスの力や良さを紹介し伝えていきたいと思っています。また、お店を通して、ネパールの暮らしや文化を伝えていきたいです。

新型コロナウイルスを切っ掛けとした新たな取り組み

新型コロナウイルスが流行する前は、80%の方が海外のお客様でした。同じ海外出身なので英語で楽しく気軽に話せることもあり、皆さん安心して訪れてくださいました。

新型コロナウイルスの流行を通して、もっと地元の人にお店を知ってもらいたいという想いが強くなっています。また、若い人にもお店を知ってもらいたいです。学生向けのセットメニューもあります。ボリュームがあるので、体育会系の人にも満足していただけます。

新型コロナウイルスの対策としては、感染拡大防止を徹底しています。新型コロナウイルスでもアジアンステーションの料理を楽しんでもらうため、デリバリー用の料理開発やお持ち帰りしやすい新メニューの提供も行っています。現在は、スーパーマーケットやイベントでの出張販売も行っています。機会があればもっと積極的に展開していこうと考えています。

コロナの状況だからこそ、できることがあると前向きに考え、実行することでより地域に根差した愛されるお店にしていきたく考えています。



店長からのメッセージ

松本に長く住み、同じ松本で、ネパールの料理やスパイスを知ってほしいとお店を開きました。新型コロナウイルスの対策をとりながら営業しています。店長のジーワンさんの夢である「みんなが元気になる健康な料理」を提供しています。大変なことがあっても、気持ちでは負けていないので上土の皆さんとともに頑張っていきたいです。

学生からのコメント

私たちがアジアンステーションでランチをいただきました！

ナンはボリュームでスパイスが効いたカレーとよく合いとても美味しかったです。ピリヤニは多様なスパイスで味付けされている炊き込みご飯で、想像よりしつこさがなく、お好みで使うヨーグルトソースでの味変もあり最後まで美味しく頂きました。おやきナンも食べやすくおすすめです。

「また、食べに行きます！」